



じりつかつどうしつ通信 第44号

香川県立香川東部支援学校 自立活動室 2024. 10. 8発行

今年度も自立活動室では、「じりつかつどうしつ通信」を通して、自立活動に関する様々な情報を発信していきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

今回の通信では、「コミュニケーション」についてです。自立活動室では、身体の動きだけでなく、コミュニケーションを中心に学習をしている生徒もあり、実際に使用している教材等を中心に紹介していきたいと思います。

口の体操

授業の最初には「あいうべ体操」や「健口体操」を行っています。「あいうべ体操」「健口体操」は、どちらも口の周りや舌、顔、首の筋肉を鍛えることができる運動です。また、「あいうべ体操」は、空気の通り道である気道を広くしたり、口呼吸を鼻呼吸に変えて病気を防いだりする効果もあります。



口の動きを絵で示しためくり式のカードを見ながら口の体操をしています。

ピンポン玉吹き



発話は、呼気（吐く息のこと）を声帯で音に変え、舌、下あご、軟口蓋、口唇等で音色を加えて表出されています。つまり、発話をするためには呼気が必要であり、自立活動室では、ピンポン玉吹きや市販の吹き戻し、吹き上げパイプを使い、呼気の長さや強さを調整する練習に取り組んでいます。

3つのコースで呼気の長さや強さを変えながら、ピンポン玉を吹き、ゴールに入れます。

ストロー魚釣り

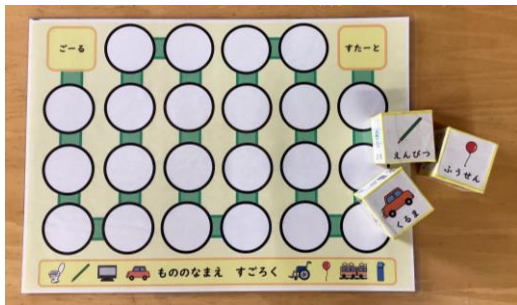
「パ行・バ行」や「マ行」の音は、どちらも最初に上下の唇が閉じられてつくられる音です。しかし、息の通り道が違い、口の中の上あごの奥にある、軟口蓋と呼ばれる部位が持ち上がることで「パ行・バ行」と「マ行」の音がつくり分けられています。ストローで魚を吸って釣るゲームで、口唇を閉じたり、軟口蓋を上げたりする練習に取り組みます。



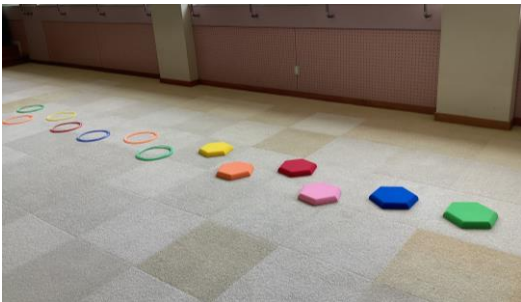
ストローで魚を吸いながら、隣のケースに移していきます。魚の紙の厚さを変えても面白いです。

音韻すごろく

単語を構成している音を分解したり（「いちご」は「い」と「ち」と「ご」）、抽出したり（「いちご」の二番目の音は「ち」）、逆唱したり（「いちご」は反対から言うと「ごちい」）する操作を意識的にすることを音韻意識といいます。音韻意識が発達すると、一つの音には一つの文字が対応することに気付き、「文字と音の対応規則」、つまり平仮名読みの習得につながります。自立活動室では、次のような言葉遊びを通して、音韻意識の発達を促進しています。



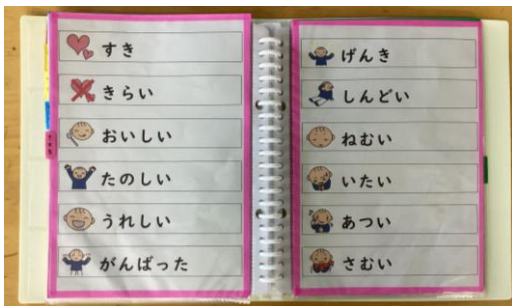
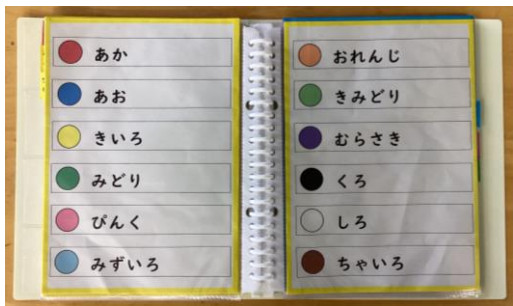
床に飛石やリングを並べ、自分がコマになりながら進む遊びもできます。



サイコロを転がし、出た言葉の文字数分（「くるま」なら、3文字）、言葉を言いながらコマを進めます。

コミュニケーションブック

本校には、音声や文字などの言葉だけでなく、身振りや表情、視線などを用いてコミュニケーションをとっている児童生徒も多々おり、自立活動室では、双方を活用しながら意思表示を行い、自分からの発信を高めることをねらいとした学習を行っています。



伝えたい言葉を「誰」「何」「どこ」「どうする」「気持ち」「どれくらい」の 카테고리に分けて載せたコミュニケーションブックです。

参考・引用文献

あいうべ体操で息育 なるほど呼吸学	今井一彰著	少年写真新聞社
介護現場で今日からはじめる口腔ケア	山田あつみ著	飯田良平監修 メディカ出版
口の体操グループゲーム集	大塚裕一・宮本恵美著	金原出版
遊びながら学ぶ発音・発語、ことばの指導	梅崎裕司著	明治図書
子どもの発音とことばのハンドブック	山崎祥子著	芽ばえ社
就学前から1年生のひらがなの土台づくり	深川美也子著	文理閣